

吳水雷第一三號

明治四十三年一月十三日

吳水雷團長藤本秀四郎

吳鎮守府司令長官加藤友三郎殿

蒸氣罐及給水唧筒増設ノ件

一 蒸氣罐 貳個 附屬品共

一 給水唧筒 貳個 附屬品共

右ノ水雷艇第七號及十號ノ罐ニシテ本團陸上機械用ニ振
付テ方御詮議相成度

理由

本團備付ノ陸上用蒸氣罐ハ本團創設當時ニ設備セラル
モノニシテ其當時ノ水雷艇數隻ヲ附屬セシメラレ之カ多ク

雷調整台等之使用せしモノにして蒸気量不足に至リテ少日量
 ナリしが現今之所属駆逐艦水雷艇等ノ數ヲ増加セリ潜水
 艇モ加リ莫雷調整台等モ頻繁トシテ蒸気量ノ不足
 ヲ感スルノ夥シク加之今般莫雷講習會開設以來
 空氣圧搾吸筒ノ使用モ頻繁トナリ為メ蒸気
 量之不足ヲ生シ来リ遂ニ圧搾空氣敷台備ノ為メ
 事業ヲ中止シ時間ヲ欠損スルノ厄ムリ得サルニ至ル場合
 有之誠ニ遺憾ノ次第ニ有之矣因ツ本國工場振
 張ノ結果敷基ノ工場機械ヲ振付ケ蒸気基機械ヲ
 用ヒテ之等ヲ運搬セントスルノ計畫成リタル共従来ノ
 罐ニテ前記理由ノ如ク到底不足ニ付テ幸ヒ今般力
 ニテ備艇ヲ偏入セリ之ノ所記水雷艇ハ明治四十二年
 三四月ノ文ニ廢艇トナルヤ之間及ビ其ノ就キテハ右二般

ノ艦ヲ陸上ニ據付ケ以テ蒸氣車回運メ不足ヲ補ヒタルニハ
一以テク奥雷調教ノノ實ヲ人々ヲ以テメ以テ工業機械
ヲ運轉セシメ斯クシテ工業ノ及非運ヲ計リ機関奇兵員
ノ教育訓練ニ資シ回ツ取逐艦水雷艇等ノ修理工事
ノ進捗ヲ計ルニ至ラハ甚多處甚々大ナル者アルヲ信ズ
依テ廢艦ノ余下ルト今時ニ本國ノ陸上ニ據付ケ方切
必要ト認ムルニ付

右稟申ス

別紙艦據付工事予算書一通添付

3

海軍

0780

蒸氣罐及岬竹筒掘付工事 豫算

一金七五百圓也

内談 金七百圓工費

金八百圓材料費

右是第 一六九号 通牒之依也

3

海

軍

0781

一白子次

丹生足

一

是亦亦及始之將之日記廣為耐守村陸上段段
 一伸の田の水田園長於附其下之関之孫等子
 取理上之申之知し大男等亦い方決断据付公造梯部調
 製之孫等昔未成方は乃の昨日田中橋長長自便之
 系の次亦今存一由の以汝の全部丸持て下見也然上之
 能守村に提出の事あり知し深謀及石垣直し棧橋築設
 等々三万田中ノ計上迄及水田園七畝ノ建修迄長ノ事也

0782

是の碑は百田中上トテ國也トテ其高價ヲ概ニ序之ハ其後
昔ハ先ト完全ノ複製トシテ見積リノ價提告ヲ其事ヲ条取
撰ハ尚書目録見上トテ一紙目録宛テ其價ノ定額居サレバ
完全ナルヲ希望スルハ申之也此也

0783

明治三十三年一月二十七日

井出謙治殿

藤本秀四郎

拝啓陳者貴殿より於て兼て御承知通本園鍛冶工場増設
相成所要機械ハ平時之廠に於て用品に借受に既
手致候以共原動力に差流罐ハ本年度未瘵艇
雷艇ノ罐ヲ据付る次第先般該事ニ要る費用ヲ見積
り提出候得共多額ノ為採用不相成再應調査致事ト相成
り今回調査ノ上見積額千五百圓ヲ提出致候最モ此ノ
貴額ハ認可相成り見込ノ範圍内ヲ以テ計上致
し次第故實際に其他ノ種々細ニテ施ス必要

0784

凡ハ勿論義兵ノ本具申書ハ今田大臣一進達相成候内其ノ
 艇件目下公然奈表セザル理由ハ之ヲ知ル所其奈表ハ三月
 末頃ト相成候由候之上申ノ許否モ本年度内ハ到底論議ナ
 敷カラント本府ノ想像ニ有之候此ハ之方ニ於テハ可成至急ヲ要
 義ニ付本者ノ意向カ認可セキ傾向ニ候此ハ經費ヲ節約ス為
 本團員ノ手ヲ以テ必要箇ノ手入諸管ノ取外レ方法ヲモ豫メ研完致
 置キ時機候之内々餘々取外レ着手致度希望ニ候向御多中
 亦古手教誅上申對ニ許否ニ付テ軍務局・經理局ノ意向ト聞取
 上何令ト内報相煩度
 右依頼ス

追テ醫水艦隊陸上設備件先般御通知申候用リ本府長官ノ余ニ依團
 三調査上提出致事ト相成リ目下調査中ヲ不自提出ス迄運ニ居リ候向左
 様事知置キ相成交

0785

起案紙第一號

明治二十九年五月九日起案

起案

五月十日發符

發符

發符後起

發符

移案

船政本部長

第三部長

部員

大臣

副官

第四部長

部員

次官

參事官

第二部長

部員

會計課長

軍務局長

局員

經理局長

主任局員

明治二十九年五月十四日

海軍大臣

此項事務係由本大臣及口部、三上、

青島、七、及、十、水、省、延、山、卷、田、

番號 七二 號 二

要

0786

心得へし

一 喬也七も及ぶ十も水方延、汽機ノ外
レ之ヲ益ルナ言字ニテ起立善好
ニ交用スルニト

一 前記ニ其初穀、由共一其ノ水雷標的
用カレテ其後後隊ノ時居セシム但ち其
新設社母トシテ其標フ業ト心得へし

0787

公覽

艦政本部

軍務



機密第九三號

明治四十三年二月十八日

吳鎮守府司令長官 加藤友三

海軍大臣 男爵 齋藤 實殿

廢艇トナルヘキ水雷艇ヲ標的トシテ交付方ノ件

本件ニ関シ當水雷團長ヨリ別紙寫ノ通り具申有之候條法詔議相成度

右上申ス

(別紙一通添)

(終)



會
ミヤニ

官房
七二號

海軍

海軍省文書

0788



三



三五 (12)

0788



衛送額部、茂達初雅七、現取、照、二、年
其、公、母、座、對、三、年、送、射、得、七、至、八、兒、子、自、其、身、
 一、件、小、最、必、密、二、三、類、切、十、九、冬、一、記、以
 尚、水、息、三、年、ハ、老、朽、艇、一、本、部、ヲ、改、造
 二、驅、逐、航、水、雷、艇、ハ、動、的、夜、射、ノ、標、的
 小、口、砲、夜、射、ノ、標、的、ト、シ、テ、シ、ン
 事、ヲ、希、望、ス

0789

(5)

吳水雷機密節二五

明治三十四年二月十日

吳水雷團長 藤本秀四郎

吳鎮守府司令長官 加藤友三郎 宛

廢艇上水雷艇ヲ標的トシテ交付相成度件

潜水艇カ潜航中ニ於テ最モ困難クモトナリスコトハ
 ニ影スル物体ノ巨離目測ハ判断ニヨリ從來ノ經驗
 ニ徴スルニ潜航中靜的ニ對シテスル甚シキ誤測ヲ
 来タスヲ以テ靜的發射實驗ノ時代ヲ經過シ動
 的發射ヲ行フニ當リ善悪ノ動的ヲ以テシテ發射
 巨離ヲ判定スルコト至難ノ業タムベシト思料ス就テ
 本團所屬節ニ豫備水雷砲ハ遠カラズ廢艇處
 分サルヘキ由之ニ適宜ノ裝置ヲ施シ以テ潜水艇

0790

航行に於て暴撃訓練用として其航使用せしむる裨
益甚く所多大なりと信し候條右水雷砲ノ中一
体ノ一隻ヲ潜水砲隊ノ訓練用として清交付方
清駐議相成る
右具申ス

(終)

艦政本部

軍務局

第三四部
計一四三
部部部

吳鎮守府第九三號

明治四十三年三月廿三日

吳鎮守府司令長官 加藤友三

海軍大臣 男爵 齋藤 實殿

除籍豫定水雷艇ノ件

席房第九七七號ノ六ヲ以テ完全修理方訓令相成

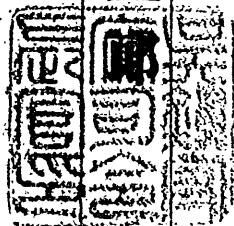
居候公福第千六百六十二號起重機船、推進流核ハ

新製備付ノ必要有之ニ目著手ノ答ニ候處近々除

籍セラルル豫定、第七號、第十號水雷艇、流核ヲ

除籍セラルル上取外之ニ流用スルトキハ工事上至大ノ

艱重ヲ得ル有之片又右艇体二隻、内一隻分



0791

本件
吾山
本

0791



本件
 三好
 氏
 之
 御
 書
 也
 其
 中
 有
 三
 好
 氏
 之
 御
 書
 也
 其
 中
 有
 三
 好
 氏
 之
 御
 書
 也

三好
 氏
 御
 書
 也



0792

水雷標的トシテ使用致度希望ニ有之既ニ去月十日
吳鎮撫密節九三號ノニ上申セシ次第ニ付併テ決
議相成度

右上申ス

3

0793

艦政本部長

第二部

第二部

會計課

皇海軍第九三號ノ六

明治三十四年四月廿六日

長谷川守尉ノ付ノ此ノ封筒ノ封入ノ友三郎

海軍艦政本部長 松本初郎

庶務科ノ標的トシテ交付ノ件

本件三封筒ニ就テ本機密部ノ三三ノ封筒
了ノ封筒取調次ノ封筒ノ包リニ封
右回封入

(別封三葉封)

(3)

艦本機密第九三號ノ三

海

軍

北陸谷會社印行



0794

會 艦

4 - 30

汽艇ヲ標的トシテ使用スル為メ設備

及費用規書

- (一) 汽機汽缶ハ取外シテ安スルモ第七号、第十号水雷艇ノ汽缶ハ其水雷艇ノ陸上設備ニ又汽機ハ公稱第六六二号起重器船ノ流用方上申シテ認可ノ曉之ヲ充用セハ別ニ取外シテ費用ヲ要セズ
- (二) 汽機汽缶取外後之ニ相當スルハラスハ石片ヲ使用スルキ見込ニ付是レ又費用ヲ要セズ
- (三) 曳船装置ハ別ニ之ヲ新設セズ現在ノピツト等ヲ使用スル
- (四) 曳艇ニ要スル身索ハ水雷艇ノ備付品ヲ使用スル

7

(五) 工事概要

汽機汽缶引揚ノ為メケーシング及甲板ヲ時取
除キテ汽機汽缶引揚後ケーシング及甲板ハ厚
走時ノ木板ヲ張り水防工事ヲ施ス

通風筒其他諸孔口ハ木板ヲ以テ水防ス

諸室出入口ハツチ等ハ厚走時ノ木板ヲ以テ水防
工事ヲ施ス

現在ノマストト略同長ノマスト止走本ヲ後部ニ新
設ス

(六) 費用金貳百餘圓

0796

内

工費金壹百廿四

材料費金壹百叁拾四

(七) 工事日数約貳週間

海

軍

0797

艦政本部 奏 印

第三部長

會計課長

部員

海軍 奏 印

海軍 奏 印

軍

明治三十二年四月

本部長

奏 印

陸務水害延、同之件

陸務水害延、同之件

陸務水害延、同之件

陸務水害延、同之件

陸務水害延、同之件

奏 印

艦本機密

三三八號

三

奏 印

0798

4-18

海軍



0799

18-30

艦政本部長

第三部長



部員



第二部長



明治三十三年四月廿六日 本部長

三井長官

艦政本部長より水家渡の標の上へ文付し、
此は本部長より水家渡の標の上へ文付し、
本部長より水家渡の標の上へ文付し、
本部長より水家渡の標の上へ文付し、
本部長より水家渡の標の上へ文付し、
本部長より水家渡の標の上へ文付し、
本部長より水家渡の標の上へ文付し、
本部長より水家渡の標の上へ文付し、
本部長より水家渡の標の上へ文付し、
本部長より水家渡の標の上へ文付し、

艦本機密 二三八 號

北時納

艦二 3-30



馬

起案紙第一號

明治四十三年四月一日起案
抄印
四月十日發行
發行後起
案者捺印

軍務局

大臣

副官

次官

參事官

艦政本部

經理局

教育本部

明治四十三年四月十五日

大臣

吳鎮長官完

五等卒教授用雛形トシテ廠艇供給ノ件

發送
官房第一三三三号

0800

其府港務部保管旧第二十号水雷艇八艘体
機関共完備ノ兵艦管需員ニ元受ノ上全艇ノ
人数限リ呉海兵團五等卒教授用雛形トシ
供給方取計スルシ
右訓令ス

了

0801

吳鎮第二五九六號二

明治四十二年十月十五日

吳鎮司令長官

大臣宛

五等卒教授用雜形件

吳海兵團五等卒教授用雜形トシテ第五第七及第四艇隊
中進ラ廢艇ト申内定、於五或拾艇内或拾艇ト申
体檢周共完備、但、全團、備付方別、理由書、通リ
全團長ヨリ請求有之、篤上取調候處必要ト認、以、各
備付方、御認許相成度、別紙理由書及据付費概算
書相添

右 上 申 ス

官房第三八九六號

一

一

(別紙二葉添)

3

0803

本上申、校鐘と保函を以て、電報事記を以て、本件戦時用紙を
リ平時に使用の方、就て、四月二十二日、一月軍第一四號、一、中略、上、校鐘、保函、本、應答アリ

大要第四十一號、二

明治三十二年十一月廿一日

大湊留港不可長、經青島成志

海軍大臣官廳對新習官宣叙

以上常用整理所、近海、牛

從來、本官廳、海軍部、於、八、冬、常用整理所、にて、
「修理工場、一、所、に、こゝに、所、修、若、陽、
於、教、練、の、お、よ、び、に、紅、習、調、整、作、業、ハ、部、
度、修、理、工、場、の、紅、習、調、整、の、中、に、於、て、
也、ハ、上、修、理、工、場、調、整、所、ハ、狭、隘、に、
同、工、場、ノ、車、業、多、忙、に、由、り、上、修、理、
其、又、一、年、餘、積、貯、之、工、場、車、業、多、忙、ナ、リ

海軍省

0804

水雷調整所建築物以外、予備の設備
一 空氣圧縮筒 一 基

此の現に要港部兵艦は平常に海用
式、或時供用船舶、即ち予備の
之の平時の補給の海用スルコト、セハ即
筒の動力が常の確守を保持スルコト
於て有益なる心算、平時之に据付
使用スルコト、即ち

一 氣蓄蓄 一 基

一 汽踏 一 基

此の四條船十隻、予備の船

三、磁、罐、若干、修理、可、妙、く、は、る、る、
同、整、用、低、圧、探、査、氣、象、器、是、六、当、分、
耐、火、セ、ト、積、ム、ル、カ、ニ、テ、之、ヲ、使、用、ス、ル、下、地

四、磁、石、磁、器、同、様、に、
之、目、六、流、用、シ、得、ル、事、多、ク、シ、是、故、に、
製、造、者、各、々、ニ、セ、ン、ト、シ、約、三、百、内、ト、

五、海、水、管、
右、各、一、段、格、納、十、回、
四、十、三、メ、ー、ト、

六、
右、各、一、段、格、納、十、回、
四、十、三、メ、ー、ト、

0807

艦政本部

會計課

大正十三年五月十九日

明治四十三年五月十九日

大湊要港部司令官上泉徳彌

海軍大臣 男爵齋藤實殿

廢船ノ罐及附属給水機機洗用ノ件

明治四十一年十一月十八日大要第四五一號ノ二

上申當要港部ニ水雷調整場設備ノ件御註

議ノ未本年度ニ於テ該建築物新設ノトニ相

成候處建築物以外ノ必要ナル設備中罐ハ廢

船再トナリタル汽機ノモトヲ使用ノ豫定ニ有之候

ニ詳細取調ノ結果其能力不足ニ至到底使用

官房第一八四二號

艦會 5-23

五三

0808

之得ル見込無之然ルニ幸ヒ本年達昇三十四坪ヲ
 以テ般以籍ヨリ除カレタル田水屬般ノ罐ハ估モ角
 當ノモノト認メ候條其良好ノ状態ニ在ル罐一基
 附屬物一切並ニ附屬給水機一基流用方御
 允許相成度
 右
 上
 申
 ス

終

0809

(名古屋武田町)

大要第二三一號ノ三

明治四十三年六月十九日

大坂西支港部

海軍艦政本部第二部中

廉般ノ鐵振付費ノ件

輕本二部一六三ノ四與會當西支港部新設の雷測

整正場中ノ廉般ノ鐵及竹ノ脚筒ノ振付費ノ在ノ由

ノ事ノ由及於東材種費ノ由於東計矣

右
① 否久

大要第一 第六三ノ二

0810

發送

第二部長



部員



甲三年六月五日

海軍艦政本部第二部

大湊支店部

廢艇ノ進出費用件

大島勇三三ノ号ノ上中ノ廢艇、鐘及附屬給水

機材流用ノ件、遺棄ノ事、振付費ノ何程

ヲ要スルヤ

ト以テ可ス

宛

機材第一ノ三三號

花崎

海軍

0811

府案

中書

起案紙第一號

石文

明治三十三年六月廿七日起案



月 日發付

發付後起
案者捺印

授案

艦政本部長

第三部長
第四部長
部員



大臣

副官

次官

參事官

會計課長

軍務局長

經理局長

明治三十三年六月

海軍大臣

長

海軍大臣

發送
番號

要

0812

其財陸揚部保等、書加十五、水富堤
シ、海軍兵學校、河内七、
以、
永、金、限

り、使、用、を、美、心、得、入、し

右、列、令、ス

明治三十二年六月、海軍大臣

教、育、部、長

0814 0813

右列令ス

其財産物部係事、意力十五、水畜産
ニ、練多、初トシテ、海軍兵學校、財力七、
リ、使用ス、義、心得入シ

右列令ス

明治三十一年六月 海軍大臣

教育大臣長

0814 0813

海軍兵學校
慶應義塾
長官、訓令、致、及、条

海軍兵學校、慶應義塾、長官、訓令、致、及、条、右、心、得、し、

(知事志)



海

軍

0815

教育本部

兵部 三二二二

明治三十三年四月廿八日

海軍監 校長 吉松茂太

海軍教育部長 畠野本俊 謹啟

五月十日進達

水雷艇御備付ノ件

一水雷艇

老雙

但し本年四月達第三十四號ヲ以テ帝國水雷艇

籍ヨリ除カレル事廿五号水雷艇

右本校生徒教授上必要ナル者ヲ品トシテ御備付

相成様御取計ヲ得度

右目大申ス

軍務局

會計課

第三部

海軍

官房第六六〇號

海軍

張

0816

明治甲子年四月廿九日

のりお島學校校長

久保あをむね貞次郎

慶の書宛付行

さるあやふふに化し、早稲田宮内、社中役員、
四子の子宛書に、あやふふに化し、早稲田宮内、
あやふふに化し、早稲田宮内、社中役員、
あやふふに化し、早稲田宮内、社中役員、
あやふふに化し、早稲田宮内、社中役員、
あやふふに化し、早稲田宮内、社中役員、
あやふふに化し、早稲田宮内、社中役員、
あやふふに化し、早稲田宮内、社中役員、
あやふふに化し、早稲田宮内、社中役員、
あやふふに化し、早稲田宮内、社中役員、

0817

世に之に社作らば其社に信梅田見名我まを来れ
 由是に以て之に神が名爲る見成しノ軍ヲカトシテ
 高平なる社ヲ高平ノ名我まを之にアテテおほし其
 況に神助し之に社に格系社あり高平名に備付
 以て神ノ上ニつゝ人々信じて又ありて其の神者計り
 之に神の中を交るるに其之に信りて固り思ひ死し見れば
 此神ノ書討後庄控即る子信おほり或ハ更
 之を神に信し申せりて其の之にヤトる神ノ知
 毎日に洞書中にあるに其の神ありて其の神ありて
 其の神ありて其の神ありて其の神ありて其の神ありて
 其の神ありて其の神ありて其の神ありて其の神ありて

0818

號外

明治三年四月廿二日

久保友太郎

山縣五郎

廣津水留船

温船廣船より先水留船ニミテ今後は行

数年同位候に耐、得見公ノモ有之義

ニ用及中貴力ニ理合、昔年干港ニ勢あり

ニ有之義候已ニ事、一法あり知上は考

考考候義ノ事ト有之候事、書事ノ難候其

他船出上ノ者有之候事、進歩ノ急

三十一

0819

下と謂ふは柄こい者持てん事業
 津浦津道より其内一隻り受らん
 要するもや其は要望するに九把ノ案件引
 流り酒堂上る急白のり酒系り及
 一、一切室をり配せ
 一、需品並地所耗の増額を計す
 一、本考より要する修繕費をサレシメ
 以上条件より任及る其必要を認めらるる之
 くの要する事難事トに思ふは其為存
 是意留付す

大市 出云

紙

1176 0820

(020)

供覽

艦政本部

第三部

會計課

軍務局

新

經理局長

主任局員

舞鶴鎮守府五三三番ノ三

明治四十三年八月二十日

舞鶴鎮守府司令長官男爵片岡七郎

海軍大臣男爵齋藤實殿

廢船舟處分件

九記還納船舟ハ檢査結果使用見込ナ

キ付廢船舟トシ雜役船舟還納及廢却手

續茅四條依リ資金融材料組入處分濟

右報告ス

還納元船名 隻數 授受年月日 廢船舟トシテ 處今年月日

第一六船隊 六二号船 壹 早三年八月十日 廢 六 早三年八月十日

六四号船 壹 早三年八月十日 廢 七



三 8-25

0822

		全	當港務部
	計	全	石炭船
		四	壹
		全	全
		全	全
		九	八
		全	全
	終		

0823

承奉部

起案紙第一號

明治二十九年九月

日起案
此系者
印論後

九月廿六日發付
其
印
本者捺印

櫻亭

艦政部長

第三部長
福田

部員
楠

大臣
海

次官

參事官

副官

第一部長

特務

第四部長
西京

橋

水

橋

橋

橋

軍務局長
折

員
中

員

員

員

員

員

主任編買

主任編買

員

員

員

員

明治二十九年九月廿六日海軍大臣

橫領司令長友平

海軍省電

發送官房第三〇八〇號

海軍

濱

神

濱

川

0824

九月廿六日

川
11
12
14
15

函館港に於て沈没之る艦艇電引揚上
 兵器其附属物ヲ官に於て收容し船體及
 機内ノ現状、但し常時却るるに
 但電線ノ收容云々及云々
 右列云々
 (続)

0825

起案紙第一號

明治二十五年八月

日起案

九月六日

案者捺印

模象

大臣 齊

次官



參事官

副官



總政本部



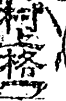
第三部長



第四部長



第一部長



第二部長



會計課長



軍務局



局員



經理局長



主任



軍令部長



第一班



第二班



場収直二書却

見込見込

官房第三〇八

毎

2622

少案左ノ方針ニ依リ處分ノ可也
 一 船中機具等類其附屬物引揚シ
 現場ニ於テ直ニ賣却スルニトス
 一 兵器並其附屬物官程ニ收容スル
 但電線收容ニ現狀ニ依リ賣却スル
 右ノ旨裁入
 (提)

0827

供覽

電

艦政本部

第三部
第四部
會計課

軍務局

軍令部

三三三

明治四十三年八月十日

大湊要港部司令官上泉徳福

海軍大臣男 齋藤 實 殿

驅逐艦電後半部概況報告ノ件

一、電後半部ハ機械室前端隔壁(隔壁ハ後半部ニ

附着シアリ)ヨリ始マリ艦尾舵ニ至ル

ニ機械室右舷側外板ハ大破剥脱シアリ(此部分ハ

衝突セル所ナリ)其附近ノパイプ及附属機類破損

多クシ 第一班

三、准士官 藤 正 班 上甲板陥落シアリ

四、西推進機 附着シアルモ、シャフト屈曲シ居ルモノ如シ

會 覽

8-23

0828

東京北村納

三
8-24

五、船体、キール、ライシ、曲リ居ルモノ、如シ

六、兵島ハ后部三吋砲存在シ、四番六吋砲、探照燈及發射管ニ門脱落シテ存在セズ

但發射管ニ門及之ニ裝填セル水雷三個、沈没位
置ヲ距約六十間、処ニテ別ニ拾ヒ取レリ

七、メイン、エンジンハ餘リ損害ナキモノ、如シ

右報告ス

終

附言

潜水者ノ言ニ依ルバ前半部ハ船体、破損後半部ヨリ
小ナルモノ、如シ

飛
知
り

起案紙第一號

明治二十九年十一月廿九日起案

押印

吉五

日發付

押印

知

押印

知

押印

起案

艦政本部長

押印

第三部長

押印

部員

押印

大臣

次官

押印

參事官

押印

押印

會計課

押印

押印

押印

押印

押印

副官

押印

押印

第四部長

押印

押印

押印

押印

押印

軍務局長

押印

局員

押印

押印

經理局長

押印

主任

押印

押印

明治二十九年十一月五日

海軍大臣

難波江村長

發送番號

官房第二九六三號

一三

一三

會
11-24
艦 三
11-18
四
15

0830

北徳分、四三子、年、ル

公征、御、七、子、小、志、氣、胆、ノ、定、致、小
ト、子、推、順、海、子、供、子、部、時、為、セ、ル、也

大、河、合、ス

0831

艦政本部

今物分三七〇号、^{（小留）}定額外附屬上ニテ旅順艦隊部
附屬校改定
分物三五九号、^{（小留）}三六〇号ニテ集学校、^{（小留）}附屬五地有連用
總務艦隊部附屬上ニテ旅順艦隊部ニテ有利ト
港々ニ分テ其後係復トシテ行テ其為局
手旅順ニ相違出テ所年ノ下ニ改、^{（小留）}新記改定

第三号

會計



艦政本部

四五、五、二〇

軍務部

會計

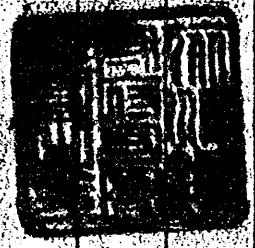
0832

旅鎮第八四三號

并出

明治四十五年八月十七日

旅順鎮守府司令長官男爵富岡定泰



海軍大臣男爵齋藤實殿

艦政本部

第三部
第四部
會計課

軍務局

當港務部保管汽艇處分方ニ関スル件

當港務部保管中ノ雜收船(汽艇運賃船等)

含ムハ本月九日ヲ以テ夫々指及地ニ後送又ハ關

東都府府ノ保管換單大概処分相附候得

共尚別表ノ三隻ハ処分未済一有之公稱第

二五九號ハ船形小ニシテ當港ニハ不適當ナ

レトモ内地各鎮守府ニ相當使用ノ者可有之

又公稱第九六三號ハ四艘ハハフデットト形ニシテ船体ニ修

第六編九六三號

八三〇 九年

0834

理ヲ加フニ先分使用サレ、見込ミ珠ノ西港
 開放以來、由外國ノ船舶續々入港致シ、從ツテ
 小蒸汽艇ノ使用ニ頻繁ト相成、係ニ就テ、本
 艇ハ當港務部所屬トシテ、増加相成度又公
 稱第二七。辨ハ、彙ニ於、練第七、五、辨ヲ以テ
 定數増加上申致置候次第ニ付、此際別
 表三隻ニ付、至急何方、御指令相成度

右申由久

別表一(彙係)

快

(備考)
 三九號
 二高脚
 三九號
 三九號
 三九號

公稱	船型	船材	全長	葉幅	吃水	排水量	船体現狀	機軸現狀	罐ノ現狀	記事
三九號	普通汽機型	木	三二呎	七呎	二呎	五噸	各部腐蝕修理 修理費不 修理費不	完備 使用 七二	狀態良好 完全ナリ	明治四十年青島 第一四七八號ノ五 成ノ保管中
二高脚	ベテツ型	木	四二呎	八呎	三呎	一噸	外板九割修理 修理費不 修理費不	完備 使用 支ナレ	状態良好 完全ナリ	右同
三九號	普通汽機型	鋼	二四呎	七呎	四呎	一噸	外板少シク腐蝕 修理費不 修理費不	完備 使用 支ナレ	状態良好 完全ナリ	右同 明治四十年青島 第一四七八號ノ五 成ノ保管中

[備考] 前記三艘共現在在壺揚エアリテ機軸ニ獸脂塗抹法ヲ行
 ヒテ保衛スルニ付古ノ公稱第一四四號罐ノ腐蝕部ニ更
 増蝕ノ兆候ヲ認メス

總政本部

第三部

第四部

會計部

事務

軍務局長

書記

書記

覺

軍務局

小牧

海軍

軍

四 11-28

三 11-28



0837

一、松鎮七八五佈上申ニ對シテハ該議ヲ要セタト認ム何ント
 ナレハ該上申ノ基固カシク魚雷計射場新設ノコトハ早レ
 鎮守府ノ賜答カシク留メテ許否不明ニ屬スルモノナレハ
 之ヲ理由トシテ汽艇定数増加ヲ上申セラルルハ稍早計ニ
 過シク被答ナリ

尚ホ佐々他日魚雷計射場ノ新設加許可キルコトア
 リトスルモ今回定数外附屬セシムルハ公積ニセヨク是
 増加ハ松鎮八四三及同七八五兩上申ノ必要ニ付シテ先ナリ
 ト認ム

(花崎 總)

11-26

郵政省

第三部

會計課

版九七一編一二

明治四十二年十月五日

大城旅順鎮守府參謀長

出

杉本海軍艦政本部部長殿

東雷射場用浮船三隻を件

輕本共三之一。辨ヲ以テ本條ノ際ニ由照有

一、該ノ系右ノ老年四月廿二日付旅鎮共四

一、二種ヲ以テ水雷射船是果極極振付

一、件上申、末官房共一五六二辨ハニヲ以テ

進新大分館

艦本第

郵政省

三

11-12



0838

此指右方之船仍在其後進之右或射船至
 急設備之必要之通之目下洗外之於之散射
 位置至其射船設備之試驗中、屬之右、
 結果能射美之其見之相立進之、案飛上
 右方ノ午洗去運ノ甲考案ノ有之而シテ
 右方船、コトノ有之、若直々之、案留採収
 用器之從後用、不違洗船之必要ノ生之候、
 年輩之目下洗掃部、係管靴船中、新居
 未定、之ノ有之候、右ノ當工作部、増加、
 候所、鑑於七八五部ヲ以テ上申セシムル
 當經理部長ヲ、經理局員ノ、回考書中記載

海軍

ノ浮船方ニハ特奉密施せん、場合ニ於ケル計
画ヲ述ハタルモノトシテ未ダ密施シタル儀トシテ
之儀系右ニ成ラズ、其ノ事

進メ切文江州ノ戦勝ハ、結了儀ニ付、日
敵射場、敵艦ノ平焼ヲ云々、以テ、其ノ事

中略

右回

(丸)

(海軍省機密)

0840

予知法々或い立本、好母、改定ッ抱シ之
ノ之用せむん、ハ又区ナリ中 行ふ、ソクハ移名
為ホキ来江母ッ改定ハ之目々々々、爲ククケ
改定、然リハ古ノ徳汗ソ受ム人ナリノ者
之ヲハナリシ侍カキハ、ハナリシ
右照今々

新 貫
（印）

花崎納

0843

旅經第一一號ノ三七二

明治四十五年九月

櫻尾昭四郎准理部長

河津海軍省准理部長



新種紅定紋物

平海之... 試射新設... 射... 古... 見...

0844

海軍

主任局員

明治四十二年八月十一日 頁

旅順砲台部長

旅順砲台

雜種船定数増加、件

旅順第七八五號 貴府長官は上申にて依りて

件増加中要、理由の貴府工作部に於て流外に

魚雷試射場新設、計画中に於て三十完成、

上、同所にて修理等之使用に必要なる額十の右

試射場新設費、如何なる費途ヲ以テ施行

セリ、又、十、整備費建築費中、計畫を見当

北崎綱

羅建第 八號

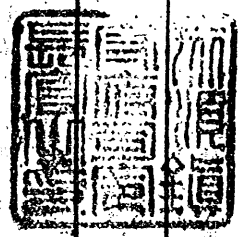


0846

旅鎮第七五號

明治四十三年八月一日

旅順鎮守府司令長官 齋藤實 謹



艦政本部

第三部

會計課

軍務局

海軍大臣 齋藤實 謹

雜收船及敷增加一件

本年七月省世務部所屬航收船及敷數是
 初兩年度今日回省工務部。於此供外。乘雷試射
 場新設計畫中。以上。該部。往復至。
 採集用トシテ航船一隻增加。必要ノ生々ノ候。
 有之候。其現在。及敷。列在。其用途。係
 難。係。同下。當。海軍部。保管中。係。航
 船。用途。係。強。右。用途。充。當。之。目的。

0848

艦 三 8-10

ヲ以テ當世勢部定數中ニ増加ノ儀御認許
相成

右申上

取

0849

供
濟

艦政本部

第三部

會計課

軍務局

總理局長

七九五

明治四十三年十一月四日

舞鶴鎮守府司令長官男爵片岡七郎

海軍大臣男爵齋藤 實殿

廢船舟處分ノ件

左記還納船舟ハ検査ノ結果使用ノ見

上ノ付廢船舟トシ雜伎船舟還納

及廢却手續第四條ニ依リ賣却處分

濟

右報告ス

左記

還納元船名隻數
港務部工廠間廢船舟トシテ
授受年月日受入番號
庚分年月日



0850

艦三 11-7

廢艦金剛

ギク

壹

甲三年
八月十日

廢

二

甲三年
十月十五日

計

壹

終

冊

頁

0851

供覽

艦政本部

第三部
第二部

會計課

軍務局

經理局長

第三三五

明治四十三年 十月 五日

吳鎮守府司令長官 加藤友三郎

海軍大臣 男爵 齋藤 實殿

廢船舟賣却處分ノ件

左記ノ如ク、舊製外六廉、將來使用ノ見込ナク、且

工廠資金材料トシテ使用シ得サルモノト認メ、今回

賣却セシメ、候條、雜役船舟還納及廢却手續、第四

條ニ依リ

右報告ス

左記

0852

113

113

113

113

113

113

113

11-20

バージ 壹隻
傳馬船 貳隻
水船 叁隻
ジンギー 貳隻
ガレー 参隻
ギグ 九隻
帆布艇 七隻

終

0853

供養

舞鶴鎮守府

明治四十三年七月五日

舞鶴鎮守府司令長官男爵片岡七郎



海軍大臣男爵齋藤 實殿

廢船舟處分ノ件

艦政本部

第三

軍務局

左記還納船舟、検査結果使用ノ見込ナキ

廢船舟トシテ雜役船舟還納及廢却

手續第四條ニ依リ賣却處分濟

右報告

左記

還納元	船名	隻數	港務部工廠間 授受年月日	廢船舟トシテ 受入番號	處分年月日
阿蘇	カシ	一	早三 年八月十日	廢	早三 年十月廿日

經理局長

0854

1415

1118



1118

		全	舞鶴海兵團	軍艦	吾妻
	計	全	押送船	三	千
		四	壹	壹	壹
		全	全	全	全
		全	全	全	全
		五	四	三	全
	終		平元年十月廿六日	平元年十月九日	

海軍

0855

軍務局長



局長



横濱吉本納

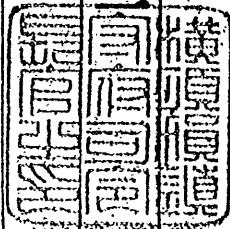
三
12-12

明治四十三年十二月十日

横須賀鎮守府司令長官代理

海軍少將坂本

海軍大臣男爵齋藤實殿



艦政本部

第三

經理局長

廢船舟賣却処分済ノ件
一、寺ノ附属品若老復元軍艦宗若ヲ運納ノ事
本報去却始老月廿百買更人ニ引渡満
存報告ス



海軍

0856

14/4 吉本